

久保常春 1967. 仏教考古学研究. ニュー・サイエンス社.  
 松阪龍雲 1997. 葱坊主に寄せて. プランタ. 51: 35.  
 みなみらんぼう 1993. 野菜の花 (丸善フォトブック). 丸善.  
 小笠原慧・木村淳 2020. 九条ネギの歴史に関する考察と京都に残る九条系一本ネギについて. 和食文化研究. 3, 136-147.  
 田中琢 1984. 平城宮—古代日本を発掘する 3. 岩波書店.  
 植木敏弼 1972. 京洛野菜風土記. 伊勢秀印刷所.  
 山崎篤 2014. 花芽分化・抽だい. 新訂ネギの生理生態と生産事例 (農耕と園芸編集部編). pp.87-97. 誠文堂新光社.  
 Yamasaki, A. and H. Tsukazaki 2023. Bunching onion. In 'Edible Alliums: Botany, Production and Uses' (Rabinowitch, H.D. and B. Thomas, Eds.). CABI Publishing, UK. (in press).

## その他参考図書

辞典・事典類 国史大事典, 広辞苑, 日本史大事典, 日本全史: ジャパン・クロニック, 精選版日本国語大辞典, 帝国大事典, 仏像装飾持物大事典, 等  
 古典 安齋随筆 (伊勢貞丈), 枕草子 (清少納言), 古今要覧稿 (屋代弘賢)  
 その他 赤堀又次郎: 読史随筆, Dunbar, E. and C. Mahoney: Gardeners' Choice, 深見奈緒子: 世界のイスラーム建築, 廣瀬忠彦: 古典文学と野菜, INAX BOOKLET Vol.11: 木瓦と葱ぼうず, 泉屋博古館: フルーツ & ベジタブルズ — 東アジア蔬果図の系譜, Jay, M.: Onions and Garlic: A Global History, 前 久夫: 寺社建築の歴史図典, 櫻井芳昭: 興 (こし) ものと人間の文化史, 宇江佐真理: 擬宝珠のある橋〜髪結び伊三次捕物余話, 等

### くまぐま 田畑の草種

## 酸い葉 (スイバ)

昨年(2022)の5月, 県で一番大きいといわれるK川の土手を歩いているときそれを発見した。発見したなどというが大げさだが, その一群が繁茂していたのである。思わず1本ぼきりと折り取ってしがんでみた。ただ酸っぱいだけであった。これが半世紀ぶりに口にしたスカンポであった。

その前は一気に学生時代にまで遡る。ワンダーフォーゲル部で先輩について山を歩くとき, のどが渇いてもその当時はなかなか水が飲めなかった。そんなとき川沿いの道に生えていたスカンポを折り取ってしがんだ。先輩は咎めもせずその酸味が喉を癒してくれる, と言ったものであった。

スカンポとの最初の出会いは小学校の低学年頃だったかと思う。当時, 街には住んでいたが, 周りにはまだまだ田んぼや畑があった。近所にはもう中学校に上がっていたかと思う兄貴分のMがいた。ある時, 遠征と称してずいぶんと遠くまで出かけた事があった。歩き疲れて「喉が渴いた」というと, 兄貴分のMが「これをかじってみな。ほんまはな, 折ったとこに塩を付けるとうまいんや」といって折り取ってくれたのがスカンポであった。

それから間もなくか何年かしてからか覚えていないが, 小学校の音楽の時間に「すかんぼの咲くころ」という唱歌を習った。

## (公財)日本植物調節剤研究協会 兵庫試験地 須藤 健一

「土手のすかんぼ ジャワ更紗 屋は蜚が ねんねする 僕ら小学一年生 (原詩は尋常科) 今日も通って また戻る すかんぼ すかんぼ 川のふち 夏が来た来た ドレミファソ」(詩: 北原白秋, 曲: 山田耕筰)

「一年生」のところは「六年生」だったかもしれないが, 「ジャワ更紗」の何たるかも知らず, スカンポは蜚が寝るところなのだと思いつつも, あの時に食べた蜚の寝床がスカンポだったのだと知るには, さらに年が過ぎてからであった。

スカンポは「スイバの別名」であり「イタドリ」の別名でもある。半世紀以上前のスカンポを思い出すのは無理があるが, 学生時代や昨年(2022)の5月に出会ったスカンポは, 葉の付き方からすると「スイバ」であった。

スイバはタデ科ギシギシ属の多年草。北海道から九州までの畦畔, 土手, 道端などに普通。背丈は50cmから80cmほど, 大きくなると1mにもなる。茎葉はところどころ赤みを帯び, 根生の葉は矢尻形で, 上部の葉は茎を抱く。茎や葉を口に入れて噛むと酸っぱいので「酸い葉」と名付けられた。雌雄異株で, 雄株は黄色っぽい淡紫色の小花, 雌株は淡紅紫色の小花を穂状につける。北原白秋は, この花が川の土手に群生して咲くのを見て「ジャワ更紗」を連想したのかもしれない。